

令和6年度 福岡市基本計画に係る実施状況の報告（案）

概要

※詳細は資料2のとおり

ユニバーサルデザイン、人権、福祉（施策 1-1～1-3、1-6）

- ユニバーサルデザインの普及啓発やベンチプロジェクトを推進するとともに、ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーの導入促進、道路のバリアフリー化などを推進。また、誰もがお互いを理解し、安心して笑顔で自分らしく遊ぶことができる「インクルーシブな子ども広場」の整備を推進。
- パートナーシップ宣誓制度やふくおか LGBTQ フレンドリー企業登録制度など、性的マイノリティへの支援に取り組むとともに、男性の育児休業取得促進など、女性活躍や男女共同参画を推進。
- 特定健診の受診率向上や生活習慣病の発症・重症化予防、歯と口腔の健康づくりなど、子どもから高齢者までライフステージに応じた健康づくりを推進。
- 高齢者の活躍支援や買い物等の生活支援を行うなど、生涯元気に活躍できる社会づくりに取り組むとともに、DXの推進や経営支援のためのコンサルタントの派遣等福祉・介護人材の確保、認知症の人にもやさしいデザインの導入促進、全小中学校で認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード®」の講座を開催するなど、すべての人が安心して暮らせる福祉の充実を推進。
- 障がい者グループホームの設置促進や重度障がい者受け入れのための改修費用等の助成、障がい者の就労や工賃向上に向けた支援などにより、障がい者の自立と社会参加を支援。

子ども、教育（1-7、1-8）

- 妊産婦や乳幼児の健康診査、産後ケアの利用者負担軽減やヘルパー派遣による外出支援の拡充等多胎児世帯の支援を行うとともに、おむつと安心定期便、こども家庭センターにおける相談支援など、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を実施。
- 第2子以降の保育料無償化の拡充や子ども医療費の助成などにより、子育て世帯の負担軽減を図るとともに、国の基準に独自の上乗せをした「福岡市型」こども誰でも通園制度、家賃助成や奨学金返済支援などによる保育士の人材確保、障がい児・医療的ケア児受入体制の整備などにより、多様な保育サービスを充実。
- 相談・診断・療育機能を担う南部療育センターの整備や、発達障がい者支援センターを中心とした相談支援・情報提供などにより、障がい児への支援を推進。
- 児童家庭支援センターや SNS 等を活用した相談支援体制の充実を図るとともに、子どもショートステイの拡充やヤングケアラー支援を行うなど、児童虐待防止対策を強化。また、子どもの食と居場所づくりを行う団体への支援や習い事費用の助成など、子どもの貧困対策を推進。
- ICT の積極的な活用や放課後補充学習などにより児童生徒の学力向上に取り組むとともに、ネイティブスピーカーやゲストティーチャーの配置、アントレプレナーシップ教育の実施など、グローバル社会を生きるキャリア教育を推進。また、特別支援学級や通級指導教室の新設、学校生活支援員の配置、特別支援学校高等部「城浜高等学園」の開校に向けた整備など、特別支援教育を推進。

- Q-Uアンケートの実施やいじめゼロサミットの開催、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーによる支援、教育支援センターの全区設置拡大、クラスに入りづらい児童の見守りなどを行う教育支援員の新設、学びの多様化学校「百道松原中学校」の開校に向けた整備などにより、いじめ・不登校等の未然防止、早期対応を推進。
- ひきこもりや非行などの困難な状況にある若者やその家族に対し、若者総合相談センターにおいて相談支援を行うとともに、中高生を中心とした若者の居場所の開設・運営を行う団体への助成を行うなど、若者の自立と社会参加を促進。

文化芸術、スポーツ（1-4、1-5、5-5、7-2）

- まちなかをアートで彩る「FaN Week」を開催し、市民がアートに触れる機会を創出するとともに、アーティストの成長・交流拠点として開設した「Artist Cafe Fukuoka」において、相談対応や企業とのマッチング等の支援を行うなど、「Fukuoka Art Next」を推進。
- 美術館、福岡アジア美術館、博物館における所蔵品の充実や魅力ある展覧会の開催、福岡市民ホールの供用開始など、文化振興の拠点整備を推進するとともに、小学生を対象とした対話型のアート鑑賞など、子どもたちの文化芸術体験の場を創出。
- 福岡マラソンの開催や各区体育館の大規模改修工事の実施など、誰もがスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりを推進するとともに、ラグビー日本代表合宿に合わせた子どもたちとの交流事業やプロスポーツチーム等と連携したイベントを開催するなど、市民がスポーツに触れる機会を創出。

地域コミュニティ、共働（2-1～2-5）

- 自治協議会や自治会・町内会が行う地域活動を支援するとともに、企業等の多様な主体の参画を促進するなど、「共創」による持続可能な地域コミュニティづくりを推進。
- 公民館の150坪化や新設、地域集会所の新築・修繕等に対する助成など、地域活動の拠点整備を進めるとともに、地域活動の担い手育成やデジタル化を推進。
- 公民連携ワンストップ窓口「mirai@」を通して、民間企業等の提案を支援することにより、社会実装を促進し、社会課題の解決等を促進。

防災、都市基盤（3-1～3-3、3-6）

- 区庁舎の非常用電源整備など、防災・危機管理体制を充実・強化するとともに、福祉事業者と連携した個別避難計画の作成や、支援者と要支援者の双方が参加し、個別避難計画に基づき避難所までの支援を行うインクルーシブ防災訓練の実施などにより、地域防災力を向上。
- 救急隊の増隊や消防救急デジタル無線の更新整備等の着手、ヘリコプターテレビ電送システム地上設備の実施設計など、消防・救急体制を充実・強化するとともに、木造戸建住宅耐震改修工事費補助の拡充など、住宅等の耐震化を促進。
- 通学路の歩車分離など、身近な生活道路の改善を進めるとともに、側道の整備等西鉄天神大牟田線連続立体交差事業を推進。

- 雨水整備D oプランや雨水整備レインボープラン天神により浸水対策を推進するとともに、都市基盤河川改修などにより治水安全度を向上。
- 市営住宅の建替えによる耐震化や分譲マンションの管理適正化の推進、高齢者や子育て世帯への住替え助成などにより、良質な住宅・住環境づくりを推進。
- 計画的な配水管の更新、漏水対策、下水処理水の有効活用などにより、安全で良質な水道水の安定供給と節水型都市づくりを推進。

感染症対策、防犯、モラル・マナー（3-4、3-5、3-7）

- 新型コロナ対応を踏まえ、感染症対策を強化するため、保健所組織を再編するとともに、感染症の発生動向の把握や正しい知識の普及啓発、感染症発生時のまん延防止の措置や施設への指導などの対策を通じて、感染症に強いまちづくりを推進。
- 街頭防犯カメラ設置費用の助成、地域防犯パトロールカーの支援などにより地域の防犯力強化を図るとともに、自転車通行空間の整備、モラルマナーや動物愛護の普及啓発などにより、安全・安心なまちづくりを推進。

環境、自然、交通（4-1～4-6）

- 脱炭素社会の実現に向けて、ZEB など省エネ性能の高い建築物の新築・改修や、中小企業等の省エネ設備更新、電気自動車等の購入、充電設備設置への支援などにより省エネルギー化を推進するとともに、太陽光発電設備への助成やマイクロ水力発電、下水バイオガスの有効利用などにより、再生可能エネルギーの導入を推進。
- 循環型社会の構築に向けて、プラスチックの分別収集導入に向けた課題検証を行うとともに、生ごみ堆肥化容器の購入補助やフードドライブ等食品ロス削減に関する取組みを行うなど、ごみ減量・リサイクルを推進。
- 生物多様性の保全やアイランドシティはばたき公園の整備などに取り組むとともに、市民や地域、企業等の共働により、「一人一花運動」や「都心の森1万本プロジェクト」に取り組むなど、彩りや潤いがあふれるまちづくりを推進。
- 市街化調整区域の活性化に向けて、定住化の促進や地域産業の振興に繋がるビジネスの創出に向けた取組みを推進。また、九州大学箱崎キャンパスやこども病院などの跡地活用を推進。
- 都心循環BRTやフリンジパーキングの利用促進に取り組むとともに、地域や交通事業者と連携して、オンデマンド交通社会実験を実施するなど、公共交通を主軸とした総合交通体系の構築を推進。

観光・MICE（5-1～5-4、5-6）

- 西日本・九州の自治体等と連携した西のゴールデンルートの実現等による広域観光を推進するとともに、Fukuoka East&West Coast プロジェクトや博多旧市街プロジェクト、福岡城「春の天守閣」ライトアップなど、自然や歴史、伝統文化を活かした観光を振興。
- 西中洲の魅力づくりに向けた石畳や清流公園の整備、リバーフロント NEXT を推進するなど、回遊性の向上を推進。

- Meeting Place Fukuoka を中心に、海外の商談会への参加等による誘致活動を行うとともに、経済波及効果の高いミーティング・インセンティブツアーやビジネス機会創出につながる展示会の開催などを支援。

産業振興、地域経済、スタートアップ（6-1～6-5、7-1～7-5）

- 九州大学と連携した研究開発拠点の機能強化を図るとともに、国内外の優秀なエンジニアが集まる環境を創出し、エンジニアフレンドリーシティ福岡を推進。また、下水バイオガス由来の水素ステーションの運営や給食配送車・ごみ収集車等のFCモビリティの導入促進、まちづくりへの水素実装など、水素リーダー都市プロジェクトを推進。
- 立地交付金や地方拠点強化税制の活用、国内外におけるPR活動などにより、成長分野・本社機能の企業誘致を推進し、12年連続で50社以上の進出を達成するとともに、産学官による「TEAM FUKUOKA」の一員として、国際金融機能の誘致を推進。
- 中小企業の資金需要に対応した十分な融資枠を確保するとともに、ITツールの導入・活用に向けた伴走型支援、カーボンゼロ商品創出支援を行うなど、中小企業の販路拡大、生産性向上及び脱炭素化を促進。
- 商店街の社会課題解決に向けた取組みやプレミアム付商品券の発行支援など、賑わいと魅力ある商店街づくりを推進するとともに、伝統工芸品の販路拡大や後継者育成の取組みなどを支援。
- 農水産物の消費拡大及びブランド化に取り組むとともに、市場関係者による魚食普及推進施設「うおざ」の開業など、市場の活性化を推進。
- Fukuoka Growth Next 及びスタートアップカフェの一体的な運営などにより、創業の裾野の拡大に取り組むとともに、スタートアップ企業のグローバル化、スケールアップ等の高みを目指したさらなる成長や既存中小企業の第二創業を促進。

都心部、拠点、ゲートウェイ（8-1～8-4）

- 規制緩和などにより、耐震性が高く先進的なビルへの建替えを誘導する「天神ビッグバン」や「博多コネクティッド」を推進。
- アイランドシティのまちづくり・みなとづくりを推進するとともに、九州大学学術研究都市において、新産業の創出を推進するための取組みや、道路・河川などのインフラ整備等を推進。
- 福岡空港では、B滑走路供用開始等による機能強化、福岡高速3号線延伸事業などを推進。博多港では、コンテナターミナル背後のバンプールの全面供用開始や臨港道路整備など、国際物流拠点の形成を推進するとともに、照明のLED化や市営渡船におけるバイオ燃料導入の実証実験など、カーボンニュートラルポートの形成に向けた取組みを推進。

国際（8-5～8-8）

- 多言語での情報発信や外国人総合相談支援センターの相談対応、日本語教育の推進、地域と外国人住民との交流、産学官が連携した留学生の育成・定着の促進など、日本人にも外国人にも暮らしやすいまちづくりを推進。
- アジア太平洋都市サミットの開催、国連ハビタット福岡本部の支援など、福岡市の国際的なプレゼンスを高めるとともに、ベトナムなどにおける技術協力等の国際貢献を実施。また、福岡アジア文化賞やアジア太平洋こども会議・イン福岡などを通して、市民レベルでの国際交流を推進。

施策	成果指標	初期値	最新値	目標値
1-1	ユニバーサルデザインの概念の理解度 (ユニバーサルデザインという言葉の意味を知っている市民の割合)	44.9%	64.0%	70%
	ユニバーサルデザインの取組みへの評価 (ユニバーサルデザインの取組みが進んでいると思う市民の割合)	30.5%	47.9%	65%
1-2	一人ひとりの人権が尊重されていると感じる市民の割合	65.9%	68.8%	80%
	男女の固定的な役割分担意識の解消度 (「男は仕事、女は家庭を守るべき」という固定概念をもたない市民の割合)	男性 57.8% 女性 65.5%	男性 72.0% 女性 81.4%	男性 80% 女性 80%
1-3	健康に生活している高齢者の割合 (60歳以上で「健康で普通に生活している」と回答した市民の割合)	44.0%	49.9%	50%
1-4	文化芸術を鑑賞する市民の割合 (過去1年間に1回以上文化芸術の鑑賞をした市民の割合)	61.6%	61.2%	75%
	文化芸術活動を行う市民の割合 (過去1年間に1回以上文化芸術活動を行った市民の割合)	13.5%	17.2%	25%
1-5	身近なスポーツ環境に対する満足度	58.3%	60.0%	70%
	スポーツ活動をする市民の割合	49.0%	60.0%	60%
1-6	福祉の充実に対する満足度	42.4%	50.9%	65%
	障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じている市民の割合	33.2%	37.8%	65%
1-7	子育て環境満足度 (福岡市が子育てしやすいまちだと感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)	60.0%	77.6%	75%
	保育所入所待機児童数	893人	0人	0人
1-8	地域の遊び場や体験学習の場への評価 (地域の小中学生はさまざまな遊びや体験学習をする場や機会に恵まれていると感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)	55.3%	58.1%	65%
	学校の教育活動に対する満足度 (保護者を含む市民全体の満足度)	27.6%	26.7%	50%
	【補完指標】学校の教育活動に対する満足度 (「わからない」及び「無回答」を除く回答のうち、「満足」又は「どちらかといえば満足」と回答した市民の割合)	55.2%	77.2%	80%
2-1	地域活動への参加率 (地域活動に参加したことがある市民の割合)	56.2%	51.0%	70%
2-2	公民館の利用率 (年に1～2回以上公民館を利用した市民の割合)	25.8%	24.0%	50%
2-3	地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が 暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	37.0%	44.2%	65%
2-4	NPO・ボランティア活動などへの参加率 (過去5年間にNPOやボランティア活動などに参加したことがある市民の割合)	12.9%	13.9%	24%
	市内に事務所を置くNPO法人数	686法人	626法人	800法人
	【補完指標】福岡市NPO・ボランティア交流センター 利用登録団体数	477団体	537団体	580団体
2-5	市の施策によるソーシャルビジネス起業者数	32人	188人	130人
3-1	地域の防災対策への評価 (住んでいる地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合)	24.1%	41.9%	50%
	自主防災活動への参加率	5.5%	9.1%	25%
	災害時要援護者情報が活用されている地域の割合	65.1%	81.9%	100.0%
	【補完指標】避難行動要支援者の個別避難計画の作成数	493件	3,414件	2,000件

施策	成果指標	初期値	最新値	目標値
3-2	通学路における安全な歩行空間の確保度(歩車分離率)	56.7%	77.2%	75%
	下水道による浸水対策の達成率 (「雨水整備Doプラン」に基づき、整備が完了した地区の面積割合)	64.2%	92.0%	90%
	【補完指標】下水道による浸水対策の達成率 (「雨水整備Doプラン」、「雨水整備Doプラン 2026」、「雨水整備レインボープラン」に基づき、整備が完了した地区数の割合)	40.9%	81.7%	87%
3-3	住んでいる住宅及び住環境に対する満足度	75.2%	83.4%	現状維持 (80%程度)
	高齢者の居住する住宅のうち一定のバリアフリー化が行われた割合	32.9%	44.7%	80%
3-4	市民のマナーに対する満足度	29.4%	52.2%	60%
	交通事故発生件数	12,700 件	5,446 件	6,000 件
3-5	犯罪の少なさに対する満足度	26.8%	44.0%	50%
	刑法犯認知件数	25,578件	14,434件	9,000件
3-6	水道水のおいしさ向上 (残留塩素濃度目標達成率)	76.0%	86.1%	85%
	水質保持や防食性に優れた安全な配水管の割合 (防食管延長比率)	71.4%	81.7%	81%
	市民一人あたり水使用量 (市民一人一日あたりの家事用水使用量)	201ℓ	198ℓ	現状維持
3-7	消費者トラブル未然防止に対する市民意識度 (商品やサービスの購入時に日頃からトラブル回避を心がけている市民の割合)	85.9%	85.0%	90%
	食の安全認識度 (食に対して安心だと感じる市民の割合)	47.7%	76.3%	75%
4-1	家庭部門における1世帯あたりのエネルギー消費量	30.1GJ※	17.7GJ	19.3GJ
	業務部門における延床面積1㎡あたりのエネルギー消費量	1.08GJ	0.80GJ	0.73GJ
	再生可能エネルギーの設備導入量 (太陽光発電の設備導入量)	26,600kW	17.6 万kW	17.1 万kW
4-2	ごみ処理量	56.1 万トン	50.5 万トン	49 万トン
	【補完指標】市民1人1日あたり家庭ごみ処理量	528g /人・日	458g /人・日	491g /人・日
	【補完指標】1事業所1日あたり事業系ごみ処理量	15.8kg /所・日	9.6kg /所・日	11 kg /所・日
	リサイクル率	30.4%	30.3%	36%
4-3	生物多様性を理解し、その保全を意識して行動している市民の割合	14.7%	17.7%	35%
	身近な緑への満足度 (身近な地域において緑が豊かになっていると感じる市民の割合)	31.6%	35.0%	55%
4-4	なし			
4-5	1日あたりの鉄道・バス乗車人員	108.4 万人	117.9 万人	120 万人
	公共交通の便利さへの評価 (鉄道やバスなどの公共交通が便利と感じる市民の割合)	77.4%	82.4%	現状維持 (80%程度)
4-6	なし			

※GJ(ギガジュール):エネルギー量の単位

施策	成果指標	初期値	最新値	目標値
5-1	入込観光客数(日帰り)	1,152 万人	1,733 万人	1,400 万人
	入込観光客数(宿泊)	490 万人	576 万人	900 万人
5-2	過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合	47.9%	57.5%	65%
5-3	観光案内ボランティアの案内人数	6,940 人	8,236 人	15,000 人
	観光情報サイトのアクセス数 (観光情報サイト「よかなび」の月間PV(ページビュー))	608 万 PV	444 万 PV	910 万 PV
5-4	国際コンベンション開催件数	216 件	79 件	313 件
	国内コンベンション誘致件数	138 件	140 件	160 件
5-5	福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数 (福岡ソフトバンクホークスを除く)	29.8 万人	36.6 万人	39 万人
	スポーツ観戦の機会への評価 (福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思う市民の割合)	72.5%	76.7%	83%
5-6	福岡市への外国人来訪者数	85 万人	390 万人	320 万人
	外航クルーズ客船の寄港回数	63 回	195 回	250 回
6-1	情報通信業の従業者数	44,910 人	54,119 人	54,000 人
	市内大学の民間企業などとの共同研究件数	699 件	1,094 件	1,050 件
6-2	成長分野・本社機能の進出企業数	28 社/年 うち外国企業等 8社	55 社/年 うち外国企業等 10 社	55 社/年 うち外国企業等 17 社
	進出した企業による雇用者数	2,501 人/年	455 人/年	3,000 人/年
6-3	全国の中小企業従業者数に占める福岡市の割合	1.45%	1.6%	1.50%
	【補完指標】 売上が令和2年3月と同等以上である中小企業の割合	-	60.8%	75.0%
6-4	福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思う市民の割合	75.2%	78.7%	85%
	新鮮でおいしい食べ物の豊富さへの満足度	87.6%	90.7%	現状維持 (85-90%)
	食関連産業の従業者数	156,303 人	150,944 人	170,000 人
6-5	就業機会の多さに対する満足度	32.0%	50.3%	50%
	市の施策による就労者数	910 人	423 人	1,400 人
	【補完指標】 就労相談窓口利用者の就職率	66.8%	53.3%	70%
	25 歳から 44 歳までの女性の就業率	66.2%	78.9%	75%
7-1	新設事業所数	790 事業所/年	1,972 事業所/年	1,200 事業所/年
7-2	なし			
7-3	クリエイティブ関連産業事業所数	2,571 事業所	3,058 事業所	2,900 事業所
7-4	なし			
7-5	若者率の全国平均との差 (福岡市の人口に占める若者率の全国平均との乖離)	+3.9 ポイント	+3.3 ポイント	+5.0 ポイント
	【補完指標】 若者の転入超過数	5,216 人	12,412 人	8,000 人~ 9,000 人 程度を維持
	企業における女性管理職比率	5.5%	13.3%	15%
7-6	全国の学生数に占める福岡市の割合	2.9%	2.9%	現状維持

施策	成果指標	初期値	最新値	目標値
8-1	都心部の従業者数	36.5 万人	39.8 万人	40 万人
	都心部の1日あたりの歩行者交通量	105,961 人	131,000 人	113,000 人
8-2	アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドももち (SRP地区) の従業者数	13,127 人	20,717 人	30,000 人
8-3	博多港・福岡空港における貿易額	3 兆 1,870 億円	7 兆 3,354 億円	5.5 兆円
8-4	博多港国際海上コンテナ取扱個数	85 万 TEU	88 万 TEU	130 万 TEU
	外国航路船舶乗降人員	87 万人	120 万人	210 万人
	福岡空港乗降客数	1,634 万人	2,676 万人	2,500 万人
8-5	外国語で簡単な日常会話ができると思う生徒の割合	35.9%	72.1%	80%
	就労目的の在留資格をもつ外国人の数	2,702 人	10,994 人	8,000 人
8-6	視察・研修受入人数	602 人	724 人	1,700 人
	【補完指標】 海外技術協力日数 (2013 年度以降の累計)	456 日	6,323 日	8,400 日
8-7	福岡・釜山間の定期航路の船舶乗降人員	69 万人	26 万人	90 万人
8-8	在住外国人の住みやすさ評価 (福岡市は住みやすいと感じる在住外国人の割合)	58.7%	63.4%	67%
	【補完指標】 在住外国人の住みやすさ評価 (福岡市は住みやすい、どちらかといえば住みやすいと感じる 在住外国人の割合)	92.5%	94.7%	現状維持 (95%以上)
	福岡市に住んでいる外国人の数	24,155 人	49,594 人	45,000 人

<地方創生に係る実施状況>

「福岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「戦略」という。）は、総合計画を基本に、地方創生の観点から施策等を整理、再構築したものであり、実施状況は「福岡市基本計画に係る実施状況の報告」のとおりである。下表は、5～8ページの成果指標を戦略に沿って整理し、再掲するものである。

基本目標Ⅰ しごと・雇用機会を創出し、活力につながる人の流れをつくる

施策	成果指標	初期値 (戦略策定時)	最新値	目標値
全 般	就業機会の多さに対する満足度(施策6-5より)	48.2% (2018年度)	50.3%	50%
	入込観光客数 (施策5-1より)	2,134万人 (2017年)	2,309万人	2,300万人
(ア)福岡市グローバル創業・雇用創出特区の推進と新たな価値の創造	新設事業所数 (施策7-1より)	1,114事業所/年 (2016年)	1,972事業所/年	1,200事業所/年
	クリエイティブ関連産業事業所数 (施策7-3より)	2,504事業所 (2016年)	3,058事業所	2,900事業所
(イ)地域経済を支えている産業の競争力強化	市内大学の民間企業などとの共同研究件数 (施策6-1より)	887件 (2017年度)	1,094件	1,050件
	博多港・福岡空港における貿易額(施策8-3より)	4兆6,795億円 (2018年)	7兆3,354億円	5.5兆円
(ウ)新たな雇用につながる企業等の誘致	成長分野・本社機能の進出企業数 (施策6-2より)	57社/年 うち外国企業等14社/年 (2018年度)	55社/年 うち外国企業等10社/年	55社/年 うち外国企業等17社/年
	進出した企業による雇用者数(施策6-2より)	1,334人/年 (2018年度)	455人/年	3,000人/年
	在住外国人の住みやすさ評価(施策8-8より)	61.4% (2018年度)	63.4%	67%
(エ)観光・MICE 振興による交流促進	福岡市への外国人来訪者数(施策5-6より)	309万人 (2018年)	390万人	320万人
	外航クルーズ客船の寄港回数(施策5-6より)	264回 (2018年)	195回	250回
	国際コンベンション開催件数(施策5-4より)	296件 (2017年)	79件	313件
	国内コンベンション誘致件数(施策5-4より)	146件 (2018年度)	140件	160件
(オ)活力につながる人材の還流・定着等	若者率の全国平均との差(施策7-5より)	+3.1ポイント (2015年度)	+3.3ポイント	+5.0ポイント
	外国語で簡単な日常会話ができると思う生徒の割合(施策8-5より)	58.9% (2018年度)	72.1%	80%
	就労目的の在留資格を持つ外国人の数(施策8-5より)	5,500人 (2018年)	10,994人	8,000人
(カ)都市の活力を牽引する拠点やゲートウェイの機能強化	都心部の従業者数(施策8-1より)	36万6千人 (2014年)	39万8千人	40万人
	博多港国際海上コンテナ取扱回数(施策8-4より)	95万TEU (2018年)	88万TEU	130万TEU
	外国航路船舶乗降人員(施策8-4より)	197万人 (2018年)	120万人	210万人
	福岡空港乗降客数(施策8-4より)	2,464万人 (2018年)	2,676万人	2,500万人

基本目標Ⅱ 働き方を見直し、安心して生み育てられる環境をつくる

施策	成果指標	初期値 (戦略策定時)	最新値	目標値
全 般	子育て環境満足度 (施策 1-7 より)	72.0% (2018 年度)	77.6%	75%
(ア)若者・子育て 世 代の経済的安定・経 済的負担軽減	25 歳から 44 歳までの 女性の就業率 (施策 6-5 より)	74.2% (2017 年)	78.9%	75%
(イ)妊娠・出産・子 育て等への切れ目な い支援	地域での支え合いにより、 子育て家庭や高齢者が暮ら しやすいまちだと感じる市 民の割合 (施策 2-3 より)	38.8% (2018 年度)	44.2%	65%
(ウ)子ども・子育て支 援の充実	保育所入所待機児童数(施 策 1-7 より)	40 人 (2018 年度)	0 人	0 人
(エ)仕事と生活の調 和(ワーク・ ライフ・バランス)	企業における女性管理職比 率(施策 7-5 より)	10.0% (2014 年度)	13.3%	15%
	男女の固定的な役割 分担意識の解消度 (施策 1-2 より)	男性 63.4% 女性 75.9% (2018 年度)	男性 72.0% 女性 81.4%	男性 80% 女性 80%

基本目標Ⅲ 超高齢社会に対応した持続可能で質の高い都市をつくる

施策	成果指標	初期値 (戦略策定時)	最新値	目標値
全 般	健康に生活している高齢者 の割合(施策 1-3 より)	50.6% (2016 年度)	49.9%	50%
(ア)生涯元気に活躍 できる社会づくり	スポーツ活動をする市民の 割合(施策 1-5 より)	53.3% (2018 年度)	60.0%	60%
	NPO・ボランティア活動 などへの参加率 (施策 2-4 より)	14.5% (2018 年度)	13.9%	24%
(イ)ユニバーサルデ ザインの理念による まちづくり	ユニバーサルデザインの 取組みへの評価 (施策 1-1 より)	32.4% (2018 年度)	47.9%	65%
	高齢者の居住する住宅のう ち一定のバリアフリー化が 行われた割合 (施策 3-3 より)	37.5% (2013 年)	44.7%	80%
(ウ)すべての人が安 心して暮らせる社会 環境づくり	地域活動への参加率 (施策 2-1 より)	49.7% (2018 年度)	51.0%	70%
	公民館の利用率 (施策 2-2 より)	23.6% (2018 年度)	24.0%	50%
	福祉の充実に対する 満足度(施策 1-6 より)	48.1% (2018 年度)	50.9%	65%
	市の施策によるソーシャ ルビジネス起業者数 (施策 2-5 より)	56 人 (2018 年度)	188 人	130 人
(エ)福岡型のコンパ クトな都市づくりと地 域活性化	公共交通の便さへの 評価(施策 4-5 より)	79.5% (2018 年度)	82.4%	現状維持 (80%程度)
	福岡市の農林水産業を 守り育てていくべきだ と思う市民の割合 (施策 6-4 より)	73.9% (2018 年度)	78.7%	85%

戦略における地方創生の取組みの内、国からの補助金を活用した事業は以下のとおりである。

「エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進」深化・高度化事業 (経済観光文化局新産業振興課)

目的	国内外の優秀なエンジニアが集まる環境を創出し、エンジニアによって生み出される新サービス等を通じて経済成長や市民生活の向上を図る。	事業期間	R4n-R6n	
		交付対象 事業経費	84,723 千円 (R6n)	
実施内容	■エンジニアカフェにおけるアウトプット創出支援			
	・先端技術やビジネス等の知見に長けたスタッフを配置し、幅広くサービス設計支援や技術支援を実施			
	・エンジニアを目指す学生を対象とした先端技術や新技術に関するイベントを実施			
	■クリエイティブ人材育成			
	・エンジニアを目指す地元学生へ人材育成プログラムを実施			
実施内容	■プロダクト開発促進支援			
	・開発コンテストを実施し、優秀者はアワードで表彰			
	■エンジニアビザの運用開始			
	・外国人エンジニアの早期入国を可能とし、企業におけるプロジェクトの早期着手によるさらなるイノベーションの促進を支援するエンジニアビザ制度の運用を開始するとともに、半導体関連産業のエンジニアにも対象を拡充した (R6.12)			
KPI		R6n 目標	R6n 実績	達成率
アウトプット創出件数(件)		22	90	391.3%
IT 人材を確保できている市内IT 企業の割合(%)		50.0	39.1%	78.2%
エンジニアビザを活用して入国した外国人エンジニア数(人)		40	32	69.5%
本事業に参画した県外のエンジニアや学生の数(人)		1,640	2,446 人	147.1%